

新しい家族葬のかたち。 「樹木葬」というかたち。

数百年を生きる樹木に護られて、人もまた、自然へと還る。

残雪の蔵王が、とても近くに見える。びゅうと渡る蔵王おろしはまだ冷たいけれど、頭の中が澄んでゆくような、心地よい冷たさだ。円形状に石を敷き詰めた広場の真ん中に立つ、一本の楓の木。秋に葉を落とし、冬にまた精気を蓄えて、今また、新たな芽を吹こうとしている。季節はめぐり、命もめぐる。わたしもまた、その環の中に還っていく。数百年を生きるメモリアルツリーに、優しく護られながら。

仙台の都心部に暮らすご夫婦から、おふたりの「終活」についてご相談を受けたのは、半年ほど前のことでした。

「わたしたち夫婦はどちらも長男長女じゃないから、新しくお墓を建てなくちゃいけないかしら、と思っていたんだけど、何だかずつとピンと来なくて。ふたりとも、あの伝統的なスタイルのお墓に自分が入る、っていうことに違和感を抱いていたんですね。それに、子供も娘が一人きりだから、墓守の役目をずっと負わせるのもかえってこっちが負担に感じるし…。そしたら、こちらの「樹木葬」のことを聞いたので、もっと詳しく知りたいと思つて」

核家族化が進み、本家のお墓とは別に新しく建墓される方がいるとともに、お子さんに墓守のご負担をかけたくない、またはお子さんがいない、という理由から、従来の建墓とは異なる選択を望む方も増えてきました。一昨年に誕生した「蔵王メモリアルパーク 楓の丘」は、そんな方々に今、大きな関心向けられている樹木葬のための場所です。「清月記」が考える樹木葬とは、悠久の時

を経て佇む樹木をメモリアルツリーにした、都市型の自然葬。いわゆる散骨ではなく、樹木に護られた墓標のもとに埋葬され、心のもった永代供養を伴うものです。従来の檀家制度や宗教に縛られることなく、どなたでも共に眠ることができる場所であり、年に一度の合同供養祭はもちろん、丘のある高田山保昌寺のご住職による年忌法要も可能です。

「実際にメモリアルパークを訪れて、ご住職とお話をして、とても素直に、あ、ここがいい!と思つたんです。妻も私も、娘にも相談したら、賛成してくれました。お墓なんていらない、なんて言うてたからどう思っているのかと思つていただけ、わたしが生きているうちは、ちゃんとお参りして、お父さんお母さんと語り合える場所がほしい。だから、ふたりが大好きな蔵王で、ふたり並んで眠れる場所があるならとても素敵だと思つた。温泉がてら、旅行がてらお参りしにおいて、と言つたら、笑っていました」

楓の花言葉は、「大切な思い出」。蔵王の峰々を見渡しながら、思い出を胸に木陰に眠る。これもまた、「清月記」の考える家族葬の新しいかたちです。

セレモニーの疑問や相談は
お気軽にお問合せください。

清月記

www.seigetsuki.co.jp

☎0800-888-5777

24時間365日受付